

中国のソーシャルワーク実践におけるクライアントの主体性への支援の検討 ーソーシャルワーカーに対するビネットを用いたインタビュー調査を通してー

○同志社大学大学院社会学研究科博士後期課程 黄 慧娟 (009838)

キーワード3つ：ソーシャルワーク実践、主体性支援、中国文化

1. 研究目的

本研究は、中国の文化的背景に根ざしたクライアントの主体性への支援のあり方を明らかにすることを目的とする。中国では、ソーシャルワークの個人主義的アプローチとされるクライアントの自己決定やエンパワメントが、儒教的価値観に基づく中国社会では、家族主義や集団主義、人間関係重視といった文化的特性と衝突する場面が多く見られる。こうした文化的背景により、実践現場では自己決定支援をはじめとする、いわゆるクライアントの主体性への支援が困難となり、パターン化された援助やクライアントの主体性の見落としといった課題が指摘されてきた。

従来の研究では、主にクライアントの視点から、ソーシャルワークの（主体性への支援の）展開を阻害する中国の文化的背景についての検討が多く見られた。その結果、中国文化とソーシャルワークの価値理念を二項対立的に捉える傾向があり、両者の融合のあり方にはなかなか至らなかったと考えられる。そこで本研究は、文化を背景としたクライアントの主体性への支援が困難なケースにおいて、現場のワーカーがどのように支援のあり方を考え、どのような文化的要因がその判断に影響を与えているのかに着目する。ワーカーの語りの分析を通じて、彼らの考えにおける課題とその原因を考察し、ソーシャルワークの普遍的価値理念と文化的配慮の両立の可能性を検討する。

2. 研究の視点および方法

本研究は、現場のソーシャルワーカーの視点を通じて、中国文化を背景としたクライアントの主体性支援のあり方を模索することを目的とする。そのために、文化的背景としたクライアントの主体性への支援が困難なケースにおいて、ソーシャルワーカーがどのように状況を捉え、どのような判断や思考をもとに支援を構築しているのかを明らかにする。

本研究では、こうした目的に沿い、ビネット (vignette) を用いたインタビュー調査を採用した。ビネット調査は、特定の状況に対する回答者の態度や信念を通じて文化的規範を引き出すと同時に、個人性を希薄化することでセンシティブなテーマへの応答を促し、複雑な事象の中から特定の要素に焦点を当てる質的手法として有効であるとされている (Erfanian ら 2020 : 2136)。したがって、本研究においても、ソーシャルワーカーによるクライアントの主体性への理解や支援の構築過程、さらにはその背後にある文化的特性を率直に引き出す手法として、極めて有用であると考えられる。

3. 倫理的配慮

本研究は、同志社大学社会学部・社会学研究科の研究倫理審査委員会の承認（承認番号2023_0001）を得て実施した。面接前に目的や質問項目、所要時間、個人情報の取扱いについて記載した説明文を対象者に送付し、同意を得た者に対してインタビューを実施した。調査当日にも再度説明を行い、同意書への署名を求めたほか、途中で中止できる旨を説明した。取得したデータは逐語録化の際に匿名化処理を施した。また、本報告に関連して開示すべきCOI関係にある企業等はない。

4. 研究結果

クライアントと家族との意見のすれ違いによる意思決定が困難な事例に対して、ソーシャルワーカーが考える支援のあり方として、【クライアント・家族の希望とワーカー自身の思いとの間に折り合いをつける】【クライアントと家族の意思を尊重した支援を行う】【ワーカー自身の判断で支援の方向性を決める】の三つの概念的カテゴリーが生成された。この三つの概念的カテゴリーは、5つの上位コードと10のコードから構成されている。

支援の理由・根拠については、【クライアントと家族による『家族重視』の価値観への理解と配慮】【クライアントとワーカーを取り巻く人間関係や社会的価値観への配慮】【家族のためのクライアントの妥協・犠牲の求め】の三つの概念的カテゴリーが生成された。この三つの概念的カテゴリーは、7つの上位コードと、15つのコードから構成されている。

5. 考察

分析の結果、ソーシャルワーカーが援助のあり方を検討する際に、クライアントの文化的背景への配慮を欠くと、支援がパターンリズムに傾きやすいたことが明らかとなった。一方で、文化的背景を考慮するにあたり、クライアントの家族中心や集団主義を主体性の表れとして肯定的に捉える場合には、その価値観を尊重した支援が展開されやすくなると考えられる。それに対して、こうした文化的特性を否定的に捉え、それらをクライアントの主体性の欠如と見なす場合、主体性の見落としや価値観の否定・変容を促すようなパターンリズム的援助に陥る危険性があると考えられる。

したがって、ソーシャルワークの支援を行ううえでは、文化的な背景を尊重することがクライアントの主体性を尊重することと深く結びついているという理解が、ワーカーに求められる。そして、その文化への向き合い方を考える際の手がかりとなるのが、ソーシャルワークに共通する基本的な価値である。つまり、支援の基盤は文化的配慮そのものではなく、ソーシャルワークの普遍的な価値理念に据えられるべきであると考えられる。

参考文献： Erfanian, F., Roudsari, R. L., Heydari, A., & Bahmani, M. N. D. (2020). A Narrative on Using Vignettes: Its Advantages and Drawbacks. *Journal of Midwifery and Reproductive Health*, 8 (2), 2134-2145.